

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会・柏税務署

一般社団法人柏法人会 会長賞

支え合う世界と税金

学校法人廣池学園

麗澤中学校 第3学年 藤本 彩花

私は「ユースで「日本の税金が海外に使われている」という話を聞いたとき、少し驚きました。税金は日本で暮らしている私達の生活のために使われるのが当たり前だと考えていたのでなぜ海外にと疑問に感じたのです。

その印象を持った理由は、身近に見ている税金の使われ方が、学校や道路など日本国内に限られていたからです。例えば教科書が無料で配布されることや、通学路の道路整備など、私自身も税金によって生活している部分があると実感しています。だからこそ、海外に使われると知つて「それは必要なのか」と考えてしまったのです。しかし、調べるうちに考え方方が変わりました。世界で大きな地震や災害が発生したとき、日本から税金による支援が届くことがあります。そのユースを見て日本からの支援によって助かる人々を知り、海外に使われる税金もまた、命や暮らしを守る重要なものだと気づきました。

そこで今回の作文のテーマは「海外への税金の使い方をどう考えるか」になります。日本国内だけでなく、世界全体で支え合う考え方が必要だと考えたからです。例として近年の災害や感染症があります。被害を受

けた国に日本が税金で支援したことで、多くの人々が食料や治療を受けられました。また新型コロナの時には、日本が開発したワクチンを海外に届ける事業も行されました。一見すると他国のですぐ、世界の安定は日本の暮らしにも繋がります。海外で感染症が拡大すれば日本に侵入する可能性があり、暮らしに大きな影響を与えます。つまり海外への支援は「自分たちを守ること」にも繋がります。

しかし一方、税金は限られた資源です。日本でも少子高齢化や貧困など、解決するべき課題が多くあります。そこで私が考える案は「税金の使い方の可視化」と「分かち合いの優先順位」をはつきりさせることです。例えば海外支援の内容や結果を、中学生などでも分かるように公表したらしいと思います。そうすれば「なぜそこにお金を使うのか」を理解することができます。また、緊急な支援を最優先とし、その次に教育関係やインフラ整備など長期的な支援をすれば、国内のバランスもとりやすいのではないかでしょうか。

まとめると、私は海外へ使う税金を「違う国のために」ではなく「自分たちの未来のため」として考えていきたいです。将来私は国際的な仕事に関わりたいと考えているので、税金による支援がどれほど多くの人を救ってきたかを実感できると思います。税金の使い方を通して「支え合う世界」を築いていくことが私たち中学生が受け継ぐ未来の課題であると強く感じます。

